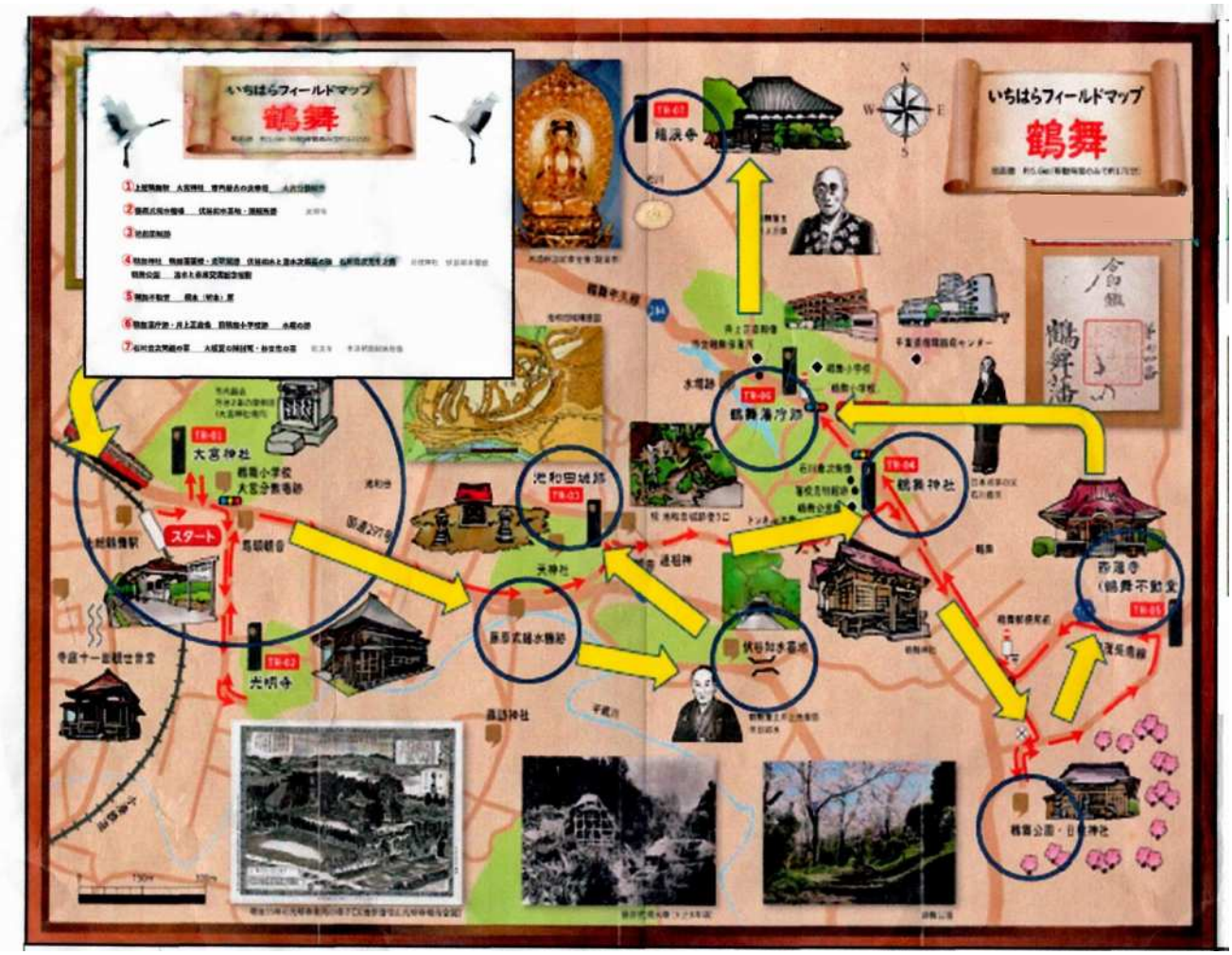
ふるさと市原をつなぐ連絡会（略称：ふるれん）　　令和 4 年 10 月 15 日

いちはらフィールドマップ巡り＜鶴舞＞

鶴舞藩を知る会　　塚原　茂



＜本日のコース＞

上総鶴舞駅　⇒　.大宮神社　⇒　藤原式揚水機場　⇒　伏谷如水墓地・隠居所跡　⇒
.池和田城跡・天神社　⇒　鶴舞神社　⇒　鶴舞公園・日枝神社　⇒　鶴舞不動堂　⇒
鶴舞藩庁跡　⇒　上総鶴舞駅

◇鶴舞概説

鶴舞台地は縄文遺跡で占められており、先住民にとっては生活しやすい所であったらしい。富士台から江子田にかげては前方後円墳をふくむ一大古墳地帯であり、古墳時代、上海上国造の支配下にありながら相当の勢力をもった豪族が存在していたと推定される。

鎌倉時代に和田太郎正治がこの地で勢力を振るい、付近には大きな沼や池があったことから、この地を池の和田としたという地名伝説がある。

その後、大永元年(1521 年)8 月 1 日に池和田城の城主が里見家の重臣多賀信繁となり、以来里見家と北条家の合戦が続いたが、永録 7 年(1564 年)に北条氏政に攻められ、城主多賀高明は自ら城に火を放って白刃してしまった。

この間、多賀氏は 1521 年に石川に竜渓寺の創建や林祥寺、長泉寺など曹洞宗の布教に努めた。

現在の中心地である鶴舞は、当初石川の字に属し、桐木台と称する五穀蔬菜の栽培地であったが、明治元年菊間藩水野氏の所領となり、続いて同年浜松城主井土正直が移封され、北子来に藩邸を設けたことから、にわかに市井となった。鶴舞の名称については、地形が鶴の舞う形に似ていたからという説や鶴の舞う慶祥の地にしようということで鶴舞とした説と、内田村の谷間に小字鶴舞谷という名称があるので鶴舞としたという説などがある。

鶴舞城は、築城半ばにして工事をやめたものの、外濠や城の用材で造ったと言われる鶴舞神社などが残っている。

明治維新により武士の多くは職を失い、教師、巡査、郡役所の書記等にかわっていったことからも、当時鶴舞藩士が多く起居していた鶴舞の文化や産業における優位性が頷ける。俗に佐倉巡査に鶴舞教師と言われるように、鶴舞藩の官員は教師になったものが多いようである。

明治 6 年には郡内初の警察、7 年には八幡、姉崎、牛久に続いて郵便局、22 年に郡内初の銀行、会社、製糸工場が設置された。

明治 24 年の町制施行時には、この鶴舞の台地に約 200 の商店を有し、鶴舞銀行と生命保険会社 4 社の代理店が立地し、米穀の取引きなど八幡町と交流が盛んであった。

明治 4 年 7 月井上氏は鶴舞県知事となったが、11 月には鶴舞県が廃止され、木更津県となり 6 年に千葉県に属すところとなる。

明治 11 年郡区町村編制法施行に際し、鶴舞、田尾の 2 村と、矢田、下矢田、池和田、山小川の 4 村は各々別の村連合を組成したが、同 22 年町村制施行にあたり、鶴舞、池和田、矢田、下矢田、田尾、山小川の 6 ケ村で鶴舞村と称し、同 24 年八幡、五井に続いて町となり、その後昭和 29 年には、南総町となった。

「市原市将来像策定調査　市原市の今と昔」発行：昭和 58 年　市原市役所企画部企画課　より

(1)上総鶴舞駅

昭和 33 年 1 月 1 日に鶴舞町駅より現在の上総鶴舞駅に改称されました。鶴舞町は井上正直氏（6 万石）の城下町で、桜の名所でもあります。平成 10 年 10 月 14 日に「関東の駅百選」に認定され、テレビドラマ、雑誌のグラビアなどの撮影に使われております。駅の裏には電気を駅舎などへ供給した発電所が残され、その記念碑もあります。2018 年に藤本壮介氏設計の新しいトイレが完成しました。

鶴舞発電所近くには同時期に建築された上総鶴舞駅貨物上屋も残されており、屋根に損壊が確認できる。大正期の貴重であることから、旧鶴舞発電所、上総鶴舞駅貨物上屋は上総鶴舞駅本屋と共に有形文化財に指定されている。

(2)鶴舞発電所

鶴舞発電所は小湊鉄道の上総鶴舞駅構内、線路を挟んで駅舎の斜向かいに位置する。

＜碑文＞

小湊鉄道駅舎電灯用として大正十四年(1925)二月二日に完成。火力発電による送電を開始した。其の後沿線各町村より点灯の要請を受けたので、昭和二年九月市原村ほか五ケ村に、次いで高滝村ほか三ケ村に電力を供給し、併せて十ケ村への点灯を果たした。　昭和八年　東京電灯からの買電に切り替え自家発電を廃止した。ついで昭和十七年配電統制令により関東配電（現東京電力）に統合合併したので、鶴舞発電所はその使命を終えた。大正十四年以来十七年間に亘り鉄道駅舎と沿線十ケ村四、四〇〇戸の家庭に明るい電灯の光を送り続けたこの鶴舞発電所跡を長く記憶に残すことを願って茲にこの碑を建立した。

遠山あき　撰文

２．【TR-01】大宮神社

明治以前は大宮大権現と称した古社で、大己貴命(おおなむちのみこと)･月読命(つきよみのみこと)･素戔嗚尊(すさのおのみこと)が祭神の地域の鎮守社です。境内には市内 最古の万治 2 年(1659)銘が入る庚申塔があり、６０日ごとの庚申の夜を眠らずに過ごして健康長寿を願って造立されました。他にも出羽三山参拝記念に大正～昭和期に建てられた供養塔や、昭和 4 年の池和田耕地整理竣成碑等があり、通りから階段を上ると静寂の森に包まれます。

3. 馬頭観音

国道２９７号線光明寺入口付近に建立

右面：文政十一子天(1828)
正面：馬頭観世音
左面：九月吉祥日

4. 【TR-02】光明寺

山号の音信山(山口地区)は、聖武天皇勅願の金光明寺の旧跡とも伝えられ、永観元年(983)に大僧正覚運が再興したのち、現在地に移ったと伝承されます。本堂周囲の土塁や 堀の跡から中世の館跡ともいわれ、近世には朱印高１５ 石 を受けました。かつては本堂と庫裏がつながり、現在の本堂は文化14年(1817)の建造で、間口約17.5m、奥行約16m、高さ約18mの宝形屋根を持つ当時の姿をとどめます。

当初は音信山に建立し、年不詳ながら当地への移転に際して、本尊だった山口木造地蔵菩薩坐像が大きすぎて運べず、山口に置いて移転してきたと伝承されています。　南総における天台宗５本寺の一でした。また、関東百八地蔵霊場74番、関東九十一薬師霊場87番です。

５． 藤原式揚水機場

池和田大宮神社　池和田耕地整備竣工碑　より
＜碑文：原文は和漢文＞
「池和田の北東側は丘陵で土地が高く、南西は養老川と田尾川の二流がある。地味はよいが水の便が悪く、昔から干害で苦労し池和田村には娘を嫁がせるな、と人々に言われるほどだった。天明年間（1781～89）には、野口傅兵衛という人が揚水機を計画したこともあったが成功しなかった。明治１０年に東京上野で我が国初の博覧会が開催された。 泉州（現・大阪府泉佐野市の人、藤原洽郎吉の木造揚水機の出品を村人が見て、その導入を図るべく、藤原氏を招いて検討の結果、池和田城跡の下を流れる田尾川に設置する事になった。明治１２年春から着工し、苦労の末同年秋

に完成した。 その後、耕地の拡大に伴ない、大正１５年には新鋭のタ−ビン式揚水機を設置する事になり昭和４年に完成、用水能力が倍増し干害が昔日の事となった。 ここに先人の功績を称え伝え不朽のものとしたい。」

この池和田の藤原式揚水機の導入を契機として、耕地が高く深い谷の川水を利用できなかった養老川上流地帯に、 続々と藤原式揚水機が設置され、多くの村々が干害から救われました。

６． 伏谷如水墓地・隠居所跡

(1)鶴舞藩家老　伏谷又左衛門（如水）墓所

伏谷又左衛門（如水）は文政元年（1818）生まれで、遠州浜松藩の家老を務めていました。慶応四年（1868）、新政府軍と幕府軍が争った戊辰戦争では、藩主井上正直が江戸勤めで不在であったため、城代の井上織部と伏谷如水の決断で新政府軍に属しています。如水は新政府軍先鋒を浜松に迎え入れ、藩兵を率い、その警護に勤めています。

その後、如水は駿府差配、裁判官判事を勤め、駿府の司法行政を統括しました。また、この時期、山本長五郎（清水次郎長）と親交があったことも知られています。しかし藩主の上総転封にともない、市原郡石川村に地内（後の鶴舞）に移住し、明治二十二年（1889）六月二十九日歿しました。七十二歳でした。

市原教育委員会

(2)　伏谷又左衛門（如水）住居跡

７．池和田城跡・天神社　馬頭観音・道祖神

(1) 【TR-03】池和田城跡・天神社

池和田という地名は、鎌倉時代に三浦氏の一族である和田太郎正治が、この地に城を構え勢力を振るっていたころ、城の附近に大きな池があったところから「池和田」になったというものや、川の曲がり込んだ場所を「わだ」ということからという説など、いろいろあります。 小湊鉄道鶴舞駅から大多喜方面に徒歩１５分のところに 小田原北条氏との激戦で有名な池和田城があります。

天下麻のごとく乱れた戦国時代、池和田城は多賀蔵人という人が城主となって、房総の里見氏に従っていました。 このころ、房総を制覇しよう とする小田原の北条氏と房総の里見氏は、事あるごとに衝突しておりました。　永禄７年（1564）１月のことです。里見義弘と北条氏政は国府台市川で激突し、里見氏が惨敗しました。　勝ち戦に勢いづいた北条の一万余騎といわれる大軍は下総を制覇し、ついに上総の池和田城に押し寄せたのです。　しかし、南は平蔵川の深い谷、北から西側は踏み込むことのできない沼、東は高い山を深く掘り切った空堀、天然の要害に囲まれた池和田城は、大軍をもってしても簡単には攻め込めません。城を囲み、百余日も膠着状態でした。 業を煮やした北条方は付近の民家を壊し、用材で堀を埋めて渡ろうとしましたが、守りは堅く、これも無駄でした。 ところが城中に裏切り者が現れました。彼は北条方に内通し、深夜に城に放火し城中を混乱させ、それを合図に北条方は城に攻め込み、ついに落城してしまいました。城主の多賀蔵人は戦死したとも、里見氏を頼って落ち延びたともいわれています。
主郭とみられる山頂部には、菅原道真を祀った天神社があります。

(2)馬頭観音・道祖神

馬頭観音（左）
　正面：馬頭観世音
　裏面：昭和十年一月十八日
　　佐野治郎建之

馬頭観音？（右）
　右面：なし
　正面：馬 [　　]
　　[　　] 月 7

８．鶴舞神社 鶴舞藩藩校・克明館跡 伏谷如水と清水次郎長の碑 石川倉次先生之像

(1)【TR-04】鶴舞神社

鶴舞藩士の崇敬により明治３年(1870)に字雪解澤に創立され、同 28 年に稲荷神社・秋葉神社が合祀され現在地に遷座しました。稲荷・秋葉両大神は藩主井上氏の領地替えのたびに城内に勧請されてきました。境内には。嘉永 3 年(1850)に浜松藩士２５名の寄進による灯篭一基、安政７年(1860)銘の手水石、慶応３年(1867)銘の神使があります。これらは浜松藩時代の奉納品を移したものです。

(2) 鶴舞藩藩校　克明館跡

克明館は遠州浜松藩の藩校として弘化二年（1845）に誕生しました。
科目は漢学、洋学、算術、習字、兵学、弓術、馬術、槍術、砲術、柔術、棒術など多彩で、藩士以外でも篤学の者は入校を許されています。
明治元年（1868)、藩の上総転封とともにこの地に移転され、明治初頭の地方子弟教育に貢献しました。　克明館がいつ廃校されたのかは明らかではありませんが、明治六年（1873）の鶴舞小学校の開校まで存在したといわれています。　関係者として、学頭（館長）には国学者で、「続日本紀考証」を著した村尾元融、学徒には日本点字の考案者、石川倉次、森鴎外の遺言を書き取った学友、賀古鶴所（かこつるど）などの著名人がいます。

平成三十年三月　　市原市教育委員会

克明館（明治三年四月頃設立され、廃藩置県まで存続）
「克く俊徳を明らかにする」（克明館記による）
　面積　約四、六三六平方米（一千四百坪）
　建坪　約一、八二一平方米（五百五十二坪）
　館長　漢学者　村尾元融
　学科　文学と武術
　　文学　（支那学・教官二人、洋学・四人、算術・三人、手跡・三人の教官・合計十二人）
　　武術（兵学･弓術・馬術・槍術、砲術・柔術・棒術・縛術・遊泳の九教科）
　　その後の増員で教官と職員で三十五人となる。

門東北側を英学寮、南側を漢学寮とし玄関より奥の広間を寮生並びに通学生の教室に充てた。
生徒の概数
寄宿生五十人、通学生二百人乃至三百人であったが、その後、学制改革後は寄宿生六十六人、通学生六百三十八人合計七百四人と多かった（寄宿生は月に白米一斗五升と金二分を納めることになっていた。）
入学　藩士の子弟は八歳になると必ず入学したが、後に、一般町民の子弟でも篤学の者は入学を許されたという。

現在、克明館跡は鶴舞公民館として使用され前庭に「伏谷如水と清水次郎長の碑」「石川倉次先生の像」が建立されています。

(3) 伏谷如水と清水次郎長の碑　（碑文は漢数字、カタカナ表示）

伏谷如水は文政元年（1818 年）１１月２２日藩主井上氏の重職として代々仕えた伏谷家に生まれ十代又左衛門を襲名、浜松藩家老を務めた。諱は昭良、如水は号である。浜松藩の上総への転封により明治２年藩主井上正直に随行して鶴舞に移住、明治２２年６月２９日７２歳で歿し、池和田岩井戸の墓所に眠る。　明治元年（1868 年）浜松藩はいち早く勤皇の意思を表明、同年３月２２日、大総督有栖川宮熾仁親王により、如水は駿府町差配役に任命された。町奉行解体後の駿府市政を司った如水は次郎長こと山本長五郎を大抜擢し、清水港周辺の警固に当たらせた。次郎長が博徒生活を捨て、世のため人のために尽くす生き方に転じたのは、実にこの時からである。　如水の抜擢登用に応え、次郎長は維新動乱期の清水港周辺の治安を全うしたばかりでなく、その後半生を社会事業家として貫いた。　次郎長にとって正に生涯の恩人とも言うべき如水の史実を後世に伝えるため、清水市の「次郎長翁を知る会」及び市原市在住の如水子孫高石鶴子らが相謀り、ここにその由来を刻し、碑を建立するものである。

平成１３年２月２３日

(4) 石川倉次先生の像

点字の始祖　石川倉次先生略歴

石川倉次は安政六年 1859)浜松城下に生まれた。

明治二年、藩主井上公の上総への国替えにより父母と共に鶴舞に移住し、藩校克明館に学ぶ。明治八年鶴舞小学校を卒業。同年千葉師範教育検定試験に合格し上埴生郡水沼小学校（現長生郡長南町）に一等授業生として勤め明治十二年七月南相馬郡鷲野谷小学校（現沼南町立手賀西小学校）同十三年千葉郡馬加村浜田小学校（現千葉市立幕張小学校）明治十九年、茂原小学校を最後に小西信八先生に請われて上京、官立楽善会訓盲唖院掛専務として赴任。これがきっかけで日本訓盲用点字を翻案、明治二十三年十一月一日の第四回点字選定会で採用され、この日を以て点字記念日とさだめられた。昭和十九年十二月、疎開先群馬県安中にて八十六歳の生涯を閉じた。

９．鶴舞公園　　清水と市原交流記念桜樹　　日枝神社

(1) 鶴舞公園　　清水と市原交流記念桜樹

千葉日報（日刊）　2000年（平成12年）4月4日（火曜日）

県央

清水市から"28人衆"訪問

転封地の市原・鶴舞で交流

『維新の縁』でふるさと談議

「次郎長翁（おう）を知る会」

「鶴舞藩を知る会」

平成 12 年 4 月　清水の「次郎長翁を知る会」の皆さまが「鶴舞藩を知る会」の案内で伏谷如水の墓所や鶴舞藩庁跡などを訪ね、桜の名所鶴舞公園で「清水と市原交流記念」として桜樹の植樹を行いました。　上はその様子を掲載した新聞記事。

(2) 日枝神社

１０．西連寺（鶴舞不動堂）

(1)【TR-05】鶴舞不動尊（称名院日月山西蓮寺）

鶴舞市街地の東にある鶴舞不動尊の大伽藍は、明治１８年(1885)成田山新栄講社行者 河津宗成師を中心とした信者の発願により建立されました。 河津宗成師は俗名を甚七といい、安政２年(1855)生まれ。

明治１５年(1882)成田山新栄講に入会。非常に信心深い人柄で翌年には宗成の法号を許され、早くも明治１８年(1885)には信者の 中心となり、成田山新栄講仮教会所を鶴舞に設置いたしました。当時は政府の宗教統制が厳しく、新たに寺院を建てることは非常に困難でした。そこで 明治１８年１２月に、田尾より真言宗豊山派の西蓮寺を移転するという名目で、当局の許可をもらいました。　西蓮寺の由緒は不明ですが、本尊は桃山時代のものです。池和田城などこの時代に田尾付近に勢力を張った豪族により創建されたものと考えられます。明治１９年(1886) １１月には関係者の苦労のかいあって、現在の不動堂が起工されました。棟梁は月出の野口竹治郎。多くの寺社の建築をした名工であります。明治２５年(1892)に、素晴らしい不動堂がめでたく完成しました。 万事豊かな現在でも、このような大伽藍を建立するのは大変なことであります。　困難の多い明治時代に、この不動堂を建立するのは、信徒の強い結集がなければ不可能です。河津宗成師を中心とした、信徒の皆さんの偉業といってもよいでしょう。 ちなみに河津正雄西蓮寺ご住職は、河津宗成師のご子孫であります

明治 18 年 1885)、成田山新栄講社行者の河津宗成師を中心とした信者の発願により、成田山新勝寺にて開眼供養された不動尊や阿弥陀如来等を勧請しました。田尾地区にあった真言宗豊山派の西蓮寺を移し、同２５年に不動堂が完成しました。大工棟梁の月出の野口氏は名工といわれ、不動堂の見事な彫刻は、見どころの一つです。境内には日清戦没者の忠魂碑等、多くの石碑があります。

野口 竹治郎 ：月出四一三　野口 和男家

滝沢馬琴（四十八歳）が江戸において「南総里見八犬伝」を著した翌文化十二年（1815)、南総の奥深き月出の大工秋田治右衛門の第三子として生まれたという。　竹治郎は幼い頃より父について大工の仕事を学び、性格は至 って篤実勤倹に富んでいた様子で、深い志を持ち、並みの大工になるよりは、腕のよい大匠になろうと決意して、隣村国本の兼岡與助の弟子となり一心不乱の竹治郎は数年にして修業を終え、初仕事の月出東漸寺山門(旧)の建立で大工としての技量が見込まれ、野口家長女みさの婿として藤右衛門家に入る。 やがて、竹治郎の名は四方に聞こえるようになり、近く

は言うに及ばず大多喜や市原郡内各地からも弟子入りする者が増え、その門下生の中から、棟梁と言われるほどの技量を得た者は三十人余にもなったと言われる。これらの技術集団が造営した神社仏閣は多く、その代表的なものは郡本寶積寺客殿や山門、同じく市原郡奉免の萬蔵寺本堂、松ヶ島の養老神社、夷隅郡上布施の虚空蔵本堂そして、真里谷真如寺本堂は戊辰戦争で炎上したが、その後の再建工事は竹治郎やその一門であるという。 竹治郎が再建した本堂は失火で再び炎上し、現在の本堂は平成三年に再建されたものである。　このほか竹治郎の業績で特筆されるものとしては、安政年間に六年余を費やし、副棟梁としてその腕を発揮した成田山本堂三代目の工事である。文久三年六月、神祇官より烏帽子、狩衣を着することを許されている。

後日、明治二十八年一月に門弟等四十六名の有志により野口翁寿碑が、撰文渡邊月庵、書は渡邊竹屏によって、月出の屋敷内に建立されている。明治三十九年一月七日没。九十二歳。

１１．鶴舞藩庁跡・井上正直像　旧鶴舞小学校跡　水堀の跡

(1)【TR-06】鶴舞藩庁跡

鶴舞藩は明治元年(1868)、徳川家達（いえさと）の駿府移封に伴い、遠州浜松藩六万石の譜代大名井河内守正直の上総移封により成立しました。 井上氏は四代正岑（まさみね）より六万石と江戸城雁之間詰の家柄となり、初代正就（まさなり）から十代正直まで転封を繰り返しながら幕府の重職を歴任し、正直自身二度も老中に抜擢されて います。

正直は、明治二年二月十一日はじめて藩領長南宿に到着し、今関家と浄徳寺を仮庁舎とし、三月十二日には城地を求め、原野桐木原（きりぎのはら）の開墾に着手、翌三年四月に藩庁知事邸が完成し、の地を「鶴舞」と名付け「鶴舞藩」が確定します。この間、明治二年六月の版籍奉還、また明治四年七月に廃藩置県が行われたため、長南での大名時代は五ケ月、鶴舞での藩知事時代は十五ケ月で終わりました。

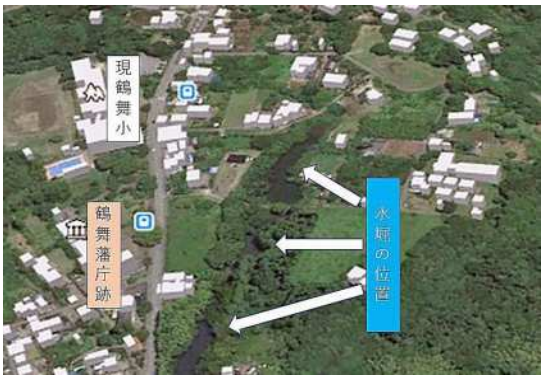
平成三十年三月　市原市教育委会

(2) 井上正直の像

(3) 鶴舞小学校跡

鶴舞藩庁の地は明治 6 年に鶴舞小学校が開設した場所で、現在は井上正直の像と、旧鶴舞小学校の校舎が残っています。

(3) 水堀の跡



正直は鶴舞藩築造に際して、享保以前より和田村の水田灌漑用池を水堀として利用した。
右は現在に残る水堀の跡。

１２，龍渓寺・木造釈迦如来座像　石川倉次両親の墓

(1)【TR-067】龍渓寺

大永元年 1521)益芝明周和尚の開山、元亀３年(1572)池和田城主多賀氏が再建したと伝わる曹洞宗寺院です。境内には、木更津市請西に陣屋を設けた上総請西藩主林氏の先祖で大坂夏の陣で戦死した林吉忠から寛政８年(1796)没の１３代忠篤までの墓石があります。明治以降は鶴舞藩士の菩提寺ともなりました。本尊の木造釈迦如来坐像は、明朝様式の菩薩形で、指定文化財です。

市指定文化財 木造釈迦如来坐像　　昭和五十四年三月十日　指定

この像は、大永元年(1521)開山と伝えられる曹洞宗**龍渓寺**の本尊で、白衣（びゃくえ）観音とも呼ばれています。像高九十四センチメートルのヒノキ材の寄木造りです。

頭部は髻を結い、正面に宝冠をあらわし、手首に釧と着けるその姿は、一見すると菩薩形ですが、江戸時代初期に黄檗宗とともに伝茨した明様式の色濃い釈迦如來像です。 黄檗宗は、中国の禅僧隠元が來日して広めた禅宗の一派で、中国明様式の建築や仏像を日本にもたらしました。

本像は、両手は腹前で禅定印を結び、右足を上に結跏趺坐し、瞑想をする如來形をあらわしてい

ます。 着衣も異風で、衲衣（のうえ）の上に法衣を羽織り、裙（＝もすそ）を胸元まで引き上げ、リボンのような紐結で飾っています。肉身部は金泥、納衣は錆地漆箔（さびじしっぱく）を施し、衣の裏と唇に朱を入れています。限は彫眼で、額の白毫には水品がはめ込まれています。蓮華座と舟形光背も当初の作とみられます。

像背面には「肥前之国長崎　唐山佛師　方超印」 と仏師名が記されているだけで、造立年は不明ですが、その作風から、十七世紀後半に遡るものと考えられます。 当地にこのよぅな黄檗禅に関わる本格的な仏像が伝わる意義は大きいものがあります。 なお本像は、平成十二から十三年にかけて、寺と檀家有志の努力で復元修理され、往時の優美な姿がよみがえりました。

市原市教育委員会